

Ⅷ 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	メディア芸術	種目	映像
----	--------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ 一般社団法人こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
制作団体所在地	〒150-0036		
	東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
電話番号	050-3188-1549	FAX番号	
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
公演団体所在地	〒150-0036		
	東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
制作団体 設立年月	2013年4月(2019年1月一般社団法人化)		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	土肥 悦子(代表理事)・諏訪 敦彦(専務理事) 藤岡 朝子(理事)・原 悟(理事) 林 知一(理事)	団体社員:土肥 悦子・諏訪 敦彦 従業員(事務局):浅見 孟 団体社員加入条件 社員総会での協議の上、加入	
事務体制の担当	他の業務と兼任	本事業担当者名	浅見孟
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	土肥 悦子

制作団体沿革	<p>2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢21世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催)</p> <p>2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。 2013年から2018年までの6年間で40回の映画に関するワークショップを行った。 活動地域は、東京・横浜・川崎・福島・弘前・高崎・上田・豊田・奈良などに広がっている。</p> <p>2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催)</p> <p>2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。</p> <p>2019年 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。</p>						
メディア教育における活動実績	別添(1)参照						
特別支援学校における公演実績	「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこなった						
参考資料の有無	A	申請する企画のチラシパンフレット等	無				
		申請する企画のDVDまたはWEB公開資料	無				
		※公開資料有の場合URL					
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	<table border="1" data-bbox="1013 1688 1447 1769"> <tr> <td data-bbox="1013 1688 1093 1727">ID:</td> <td data-bbox="1093 1688 1447 1727"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1013 1727 1093 1769">PW:</td> <td data-bbox="1093 1727 1447 1769"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:							
PW:							
	Aの提出が困難な場合	今回申請する企画に近い活動を記録したDVDまたはWEB公開資料	有				
		※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=WX7_y60cZml https://www.kodomoeiga.com/2019				
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	<table border="1" data-bbox="1013 1930 1447 2011"> <tr> <td data-bbox="1013 1930 1093 1968">ID:</td> <td data-bbox="1093 1930 1447 1968"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1013 1968 1093 2011">PW:</td> <td data-bbox="1093 1968 1447 2011"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:							
PW:							

メインプログラム・ワークショップの内容

【公演団体名

こども映画教室

】

対象	<input type="radio"/>	小学生(低学年)	<input type="radio"/>	中学生									
	<input type="radio"/>	小学生(中学年)											
	<input type="radio"/>	小学生(高学年)											
企画名	映画鑑賞+撮影ワークショップ「名作映画を観て、シーンを撮影してみよう！」 ～映画を深く味わい、映画のシーンを再現撮影してみよう！～												
プログラム全体の流れ	【プログラムの構成】												
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>ワークショップ1回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワークショップ2回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ2回</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>メインプログラム → ワークショップ1回</td> </tr> </table>					ワークショップ1回 → メインプログラム		ワークショップ2回 → メインプログラム		ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ		メインプログラム → ワークショップ2回	<input type="radio"/>
	ワークショップ1回 → メインプログラム												
	ワークショップ2回 → メインプログラム												
	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ												
	メインプログラム → ワークショップ2回												
<input type="radio"/>	メインプログラム → ワークショップ1回												
	【全体の流れ】												
	別添(2)参照												
児童・生徒の参加上限人数	ワークショップ ④	50～250名想定 (対象学年のみで行う、全校生徒で行う等、学校と相談のうえ対応可能です。)											
	メインプログラム ①②③	50名～250名程度を想定 (これ以上の人数の場合はご相談ください。)											

<p>メインプログラムの 主たる指導者</p>	<p>別紙「2022A_②【出演者名簿】A区分」参照</p>		
<p>スタッフ人数 (1公演当たり)</p>	<p>上記指導者を含め、17名</p>	<p>機材等運搬方法</p>	<p>積載量： 1 t 車 長： 4,265 m 台 数： 2 台</p>
<p>企画のねらい</p>	<p>別添(3)参照</p>		

【公演団体名 こども映画教室 】

<p>実施にあたっての 会場条件および 学校側が必要な準備等</p>	<p>実施条件等確認書①をご確認ください。</p>	
<p>当日の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p> <p>※採択決定後、採択団体へ 学校側に提示する条件の確 認書の作成をお願いします。</p>	<p style="text-align: center;">【ワークショップ】</p> <p>2日目 12:00 学校到着&機材設営&試写&打ち合わせ 13:00 ワークショップ(45分) ※全体の流れ④ 13:45 終了 ~ 17:00 上映機材搬出</p>	<p style="text-align: center;">【メインプログラム】</p> <p>前日(準備:1.5~3時間) 16:00 学校到着&先生方と打ち合わせ 上映会場暗幕設置などの設営 上映リハーサル</p> <p>1日目 8:45 メインプログラム開始(160分) ※全体の流れ①~③ 11:25 メインプログラム終了</p>
<p>特別支援学校での 実施における工夫点</p>	<p>特になし</p>	
<p>実施可能時期</p>	<p>実施可能時期スケジュール表をご確認ください。</p>	

リンク先	No.1	【公演団体名 とも映画教室 】
メディア教育における活動実績	2013年8月	横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと「とも映画教室@ヨコハマ2014」実施(2014年、2015年、2016年も実施)
	2014年6月	世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催
	11月	〈ともと映画制作〉しんゆり映画祭シンポジウム招聘・登壇
	2015年1月	映画と教育についてのシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」主催(以降毎年主催)
	1月～3月	横浜市立新田小学校「とも映画教室@新田小学校」を(総合の時間・国語などの授業で)開催
	2月	「映像アート・マネージャー養成講座 in 宮古」にて「とも映画教室と創造的な場づくりについて」講義・登壇
	7月	「全国映連第44回 映画大学in今治」にて「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇
	10月	山形国際ドキュメンタリー映画祭にて「ともと映画」シンポジウム招聘・登壇
	2016年6～10月	お茶の水女子大学付属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施
	2019年	平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として「とも映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施 チリのチリ大学において、「映画は学校だ！ 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子) 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－実施 「とも映画教室シネクラブ@横浜シネマリン2019」実施 「とも映画教室CCAJ2019-2020」実施 独立映画鍋主催「映画教育のススメ～教育における映画の可能性～」に参加(中学生たち含む)
2020年	「とも映画教室2020×小布施短編映画祭」参加 「とよた★とも映画教室2020」実施・「アトリエとも映画教室2020」実施 「TIFFティーンズ映画教室2020」実施 「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施	
2021年	「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施 「TIFFティーンズ映画教室2021」実施	

リンク先	No.2	【公演団体名	こども映画教室	】
プログラム全体の流れ	【全体の流れ】			
	1日目【メインプログラム】(160分*休憩10分を含む)			
① 導入・講師紹介・『お早よう』について(11分)				
② 「映画鑑賞」:鑑賞作品『お早よう』上映(94分/1959年/日本)				
休憩(10分)				
③ 鑑賞プログラム(映画鑑賞ノートを完成させよう!)				
「映画の中の主人公の気持ちを想像してみよう」(45分)				
こどもたちのあいだでは、おでこを押したらオナラをするという遊びが流行っている。まだまだテレビが個人の家にはなかった時代の話。自分の家にもテレビを買ってほしい、と親にお願いする小学生の兄弟。ダメだという父親に抵抗して、テレビを買ってもらうまで大人に口をきかないというだんまりストライキをするというお話。				
こどもたちが鑑賞したとき、時代を超えて主人公たちに共感することと思います。				
主人公の気持ちは映画の中で説明されません。それでも観客は主人公の少年に共感し、同じような気持ちになります。観客の想像力が映画を完成させているのです。私たちは「主体的な鑑賞者」なのです。そこに気づいてもらうプログラムです。				
1) 映画鑑賞ノートを用い、映画に登場した人物、場所、出来事を思い出し、ノートに書き出す				
2) ノートに記載しているシーンで、主人公がどんなきもちだったのか、書き込む				
3) 隣の人のノートと交換し、人との違いを発見する				
4) 主人公は映画のなかで自分の気持ちをセリフで話したり、ナレーションで説明があったわけではないのに、こどもたちが主人公の気持ちを書くことができたのは、実は鑑賞者は映画を受動的に観ているだけではなく、能動的に自分たちの想像力を働かせながら観ているのだという話をする。				
2日目【ワークショップ】(45分)				
④ 撮影ワークショップ(45分)				
1チーム5名ほどに分かれ、iPadで撮影をしてみる				
・ミッションカードを使って、いろいろなアングルでの撮影や、移動撮影などを実際にやってみる				
・『お早よう』に出てきたシーンを撮ってみる				
特別講師(映画監督など)からの講評				

リンク先	No.2	【公演団体名 こども映画教室 】
企画のねらい	<p>①主体的な観客を育てる 映画はつくっただけでは完成しない。人が観て初めて完成する。 だからこそ、時代を超えて人々に愛される映画が名画とされる。同じ映画を観ても、観たときの年齢や状況によって感じ方が違うことがあるのも、映画が各人の脳(心)のなかでその人の経験や記憶を呼び覚ましていくからだろう。 そのように“映画を観ている「私」”を感じ、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」ということは普段あまり意識されない。そのような鑑賞は観る側にも鑑賞能力を必要とするからだ。 そこで、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような、映画鑑賞における“主体的な観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを楽しく体験できる機会が必要である。</p> <p>②発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上 また、鑑賞のみではなく、鑑賞した映画に関連した撮影を体験することで、カメラの存在(アングルやサイズ、フィックスなのか手持ち、移動撮影など)や被写体の動き、演技などに気づくことができる。 こうしたこどもたちの発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。</p> <p>③名作鑑賞による地域交流 ワークショップ1回目は、世界に誇る日本の名匠、小津安二郎監督の不朽の名作『お早よう』の鑑賞。映画館が街中からなくなっている今、体育館が映画館に変わるということは、地域の大人も含めて体験してもらいたいことである。その鑑賞に『お早よう』は最適であると考え。1959年の作品ではあるが、主人公の少年たちの気持ちは今のこどもたちでも共感できる。コミカルなシーンも多く、こどもたちにも大人にとっても忘れがたい映画鑑賞となるだろう。また、日本が世界に誇る映画監督である小津安二郎作品をこういう機会にぜひ鑑賞してもらいたい。</p> <p>④映画を深く鑑賞する 鑑賞後のワークショップでは、映画に何が映っていたか、どんな場所が出てきたか、何が起こっていたか、というワークをやることで、映画の内容を振り返り、またいくつかのシーンでの主人公の気持ちを想像して書いてみる、というワークをすることで、より深く作品を理解していく。</p> <p>⑤メディアリテラシーとして、簡単な撮影を自分で試みることで映像が作られたものであることを理解する。 ワークショップでは、iPadを使って、クローズアップ、移動撮影、アングルを変えた撮影などをゲームのように撮ってみる。作品のなかの1シーンを再現してみることで、カメラの存在を意識することになる。映像は作られているということを実感する。</p> <p>⑥映画づくりには正解がないことを伝える 映画鑑賞においても、映画制作においても正解がないこと、自由な解釈ができることを伝える。 プログラム全体を通して伝えていきたいのが、リラックスして自由な発想をすることが大切であること。クリエイティブであるためには心を開放し、楽しさを感じながら映画を観たり作ったりしていくことを伝える。 こどもたちは自分なりの映画の観方を自由に発表し、“主体的に”映画を楽しみ、自分の観たいように観てもいい、という体験を通して、自己肯定感が育まれることもこの企画のねらいである。</p>	

令和4年度「文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-」
出演者名簿（予定）

A区分

企画名：映画鑑賞+撮影ワークショップ「名作映画を観て、シーンを撮影してみよう！」

～映画を深く味わい、映画のシーンを再現撮影してみよう！～

出演者		17名				
役職	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
1 映画監督（特別講師）	諏訪敦彦	萩生田宏治	五十嵐耕平	深田隆之	鶴岡慧子	※1
2 プロデューサー	土肥悦子					
3 映像制作チーフチームリーダー	今橋貴					
4 映像制作チーフチームリーダー	奥定正掌					
5 映像制作チーフチームリーダー	大川景子					
6 映像制作チーフチームリーダー	飯岡幸子					
7 映像制作チーフチームリーダー	西原孝至					
8 映像制作チーフチームリーダー	糠塚まりや					
9 映像制作チーフチームリーダー	小林和貴					
10 映像制作チーフチームリーダー	山本英					
11 映像制作チーフチームリーダー	藤田開					
12 メイキングスチール撮影監督	太田達成					
13 メイキングスチール撮影監督	中村隆一					
14 テクニカルマネージャー	酒井貴史					
15 テクニカルマネージャー	御子柴和郎					
16 テクニカルマネージャー	山本大輔					
17 アシスタントプロデューサー	浅見孟					

※1 巡回スケジュールにより1名を派遣

こども映画教室[®]

映画鑑賞 + 撮影ワークショップ

「名作映画を観て、シーンを撮影してみよう！」

～映画を深く味わい、映画のシーンを再現撮影してみよう！～

映画を鑑賞し作品について理解を深め、映画撮影を体験するワークショップ公演

1

映画を“観る”

体育館に映画のスクリーンを設置して、名作映画を鑑賞します。
映画館のない街でも、子どもたちに大きなスクリーンでの映画体験をしてもらいます。



2

映画について “おしゃべりする”

鑑賞した映画について、どんな登場人物が出ていた？どんな音がした？など、
みんなでおしゃべりしながら振り返り、映画について感じたことや考えたことを言葉にします。

3

映画を自分たちで“撮る”

チームに分かれ、iPadで撮影をします。
撮影ミッションが書かれたカードをみて、いろいろなアングルでの撮影や移動撮影などを体験します。
その後、鑑賞した映画に出てきたシーンをみんなで再現し、撮影に挑戦します！



一般社団法人

こども映画教室[®]とは？

こども映画教室[®]は2004年金沢で活動を始める。2013年に拠点を東京に移してからは全国に活動が広がっている。「こどもと映画のアカリイミライ」を作ることをミッションに、「大人は手出し口出ししない」「本物の映画人と出会わせる」ことをポリシーに、映画鑑賞や映画制作のワークショップを実施している。これまでに枝裕和、諏訪敦彦、今泉力哉、前田哲といった第一線で活躍する映画監督を講師に招いている。

こども映画教室[®]の

紹介動画はこちら！



【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	F88	分野	メディア芸術	種目	映像	ブロック	F	区分	A区分
公演団体名	こども映画教室				制作団体名	一般社団法人こども映画教室			

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談	
控室について	必要数*	1室	条件	機材や貴重品を一時保管するため施錠ができる、かつスタッフ打ち合わせができる教室(または会議室)が望ましいです。				可	
搬入について	来校する車両の大きさと台数*			バン	2台			不可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							/	
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			全長5380mm×全幅1880×全高2285mm					可
	搬入車両の横づけの要否*			要				可	
	横づけができない場合の搬入可能距離*			問わない				可	
	搬入経路の最低条件			・なるべく屋根があること ・可能な限り台車が使用できること				可	
	理由			音響、上映機材など、重量のある精密機器を搬入するため				/	
	設置階の制限*			問わない					可
搬入間口について 単位:メートル		幅	指定なし	高さ	指定なし		可		
WSIについて	参加可能人数	50～250名想定 (対象学年のみで行う、全校生徒で行う等、学校と相談のうえ対応可能です。)					可		
	学年の指定の有無*	なし	指定学年*			可			
	所要時間の目安 単位:分	【1日目】WS①45分／【2日目】WS②45分					可		
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。				/	
	鑑賞可能人数			50～250名想定 (対象学年のみで行う、全校生徒で行う等、学校と相談のうえ対応可能です。)					可
	舞台設置場所*			ステージ上・フロアの両方				可	
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	4.5m	奥行	1.5m	高さ	3.7m	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保*			不要				可
		舞台袖スペースの条件*			機材や備品を一時保管するスペースとして使用				可
		緞帳*	要		バトン*	不要		可	
	遮光(暗幕等)の要否*			要	理由	プロジェクターで映像を投影するため		不可	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動*		不要		※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。		可	
		ピアノの事前調律*		不要				可	
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況*			格納されていれば可			可	
	公演に必要な電源容量			6A	※主幹電源の必要容量			可	
その他特記事項							応相談		
iPadの設定などにインターネットを接続希望です。必ずしも体育館でインターネットを使用できる必要はありませんが、応募時にwi-fiの設置等インターネットの接続環境をお知らせください							可		

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	指定なし	高さ	指定なし
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

